

大会宣言

県民の皆さん。私たち社民党福岡県連合は、本日、第16回定期大会を開催し、憲法を無視し、民主主義を歯牙にもかけない安倍自・公政権と厳しく対峙し、「平和と人権、民主主義」確立に向けた闘いを、さらに強化していく決意を固めました。安倍政権は、国民が戦後、営々と築き上げてきた平和主義、民主主義、地方自治など、その全てを覆そうとしています。

その象徴的な例が、沖縄県民の民意を踏みにじり、強引に進められる辺野古新基地建設の問題です。また、原発の問題では、事故から丸7年が経てもなお、7万人近い方々が不自由な非難生活を強いられているにもかかわらず、事故の原因も究明されないまま、電力会社と原発産業の利益を優先し、原子力を成長戦略に位置づけ、多くの地元住民の反対の声を無視し、再稼動や原発輸出を推進しています。

また国会では、森友学園への国有地払い下げ問題や加計学園問題では、官僚による虚偽答弁に留まらず、公文書の改ざんなど、民主主義の根幹を揺るがす事が、平然と行なわれています。

今月22日、通常国会は会期を32日間延長し、「働き方改革関連法案」や、カジノを含む「総合型リゾート施設(IR)整備法案」、さらには党利・党略以外の何ものでもない「参議院定数6増法案」を強引に成立させ、閉会しました。

このように安倍内閣は、国民を見下し、民主主義を無視し続けています。私たち社民党は、このような安倍自公内閣に対して、「平和憲法」を守り「立憲主義」に立脚する闘いを、さらに進めていくことも決意しました。

このような情勢の中、2019年には統一地方選挙、そして夏には参議院選挙が行なわれます。私たちは、この二つの選挙を真に政治決戦の闘いと位置づけ、同時に党存亡をかけた闘いでもある事を意思統一したところです。

県民の皆さん。私たち社民党は、県民の皆さんの期待に応えるべく、全力で、この二つの選挙を闘い抜く覚悟です。社民党の消長は、そのまま「平和憲法」の命運につながると言っても過言ではありません。

県民の皆さん。私たち社民党は、2019年統一自治体選挙、そして夏の参議院選挙を全力で闘うことを再度、明らかにいたします。わが社民党に対する県民の皆さんのご支持ご支援を心から訴え、大会宣言とします。

2018年7月28日
社民党福岡県連合第16回定期大会